

ネットを生きる

島根県安来市立伯太中学校 3年 福田 愛真



ユーチューブなどに投稿されている動画のコメント欄で、暴言や不謹慎なコメント、ユーザー同士の言い合いや煽り合いを見たことがありますか。

今年の春、消息不明になった少女に関するニュース動画が、ユーチューブにたくさんアップロードされていました。そのコメント欄では、彼女の無事を祈ったり、彼女のご家族を思うコメントがたくさん書かれていました。その反面、不謹慎なコメントも幾つか目にしました。ある映画のとあるワンフレーズを引用し、その一部分を変えてコメント欄に書き込むのが流行っていたのです。一部を変えることにより、とても不謹慎で、見た人が不快になるような内容になっていました。実際に私もすごく不快になったし、不特定多数の人が見る動画のコメント欄でそんな心ないことを言う人があまりにも多かったのが衝撃的だったし、すごく腹が立ちました。

また、この出来事について、誘拐や殺人などの事件を見て犯人を推測して決めつけ、その人へ向けた誹謗中傷を書いている人もいました。推測するまでは自由だと思います。しかし、それを世界中の誰でも見られる所に書いて、更に自分が勝手に犯人だと決めつけた人に、誹謗中傷の言葉を好き放題発信するのは間違っていると思います。

そのようなことを言う人たちは、ネット上で匿名だから、そういうことを言っても問題ない、本人に届けるために言っていないから問題はないと考えているのでしょう。ただの暇つぶしだと思っているから、心無い言葉を簡単に言えるのだと思いました。誹謗中傷は犯罪だし、それらに向けられる本人だけではなく、それを見かけた多くの人にも不快にさせます。不謹慎な言葉も同じです。

不謹慎なことをネタのように言う人は、誰かに反応してもらいたいのではないかと考えます。わざとひどいことを言って、人々の反感を買い、その人たちから批判のコメントが寄せられると、かまってもらってうれしいと思っている人もいると思います。それに暇つぶしになっていることもあると思います。

つまり、人々の反感を買い、その人たちから批判のコメントが寄せられてくるというのは、不謹慎なことを言った人の思うつぼだということです。そこで私が考え、自分がそうしようと思ったことは、心無い発言を相手にしないということです。直接注意しても直らないと思うし、注意する行為そのものが、その人に反応していることになるので、相手にしないのが一番だと思います。それはインターネット上のユーザー同士で言い合いになることも防げると考えます。

このことはネットの世界のことだけではなく、今生活している周りの環境にも言えることだと思いました。例えば、何か嫌なことを言われた時、相手にせずに済むことだったら相手にしない方が、反応を見て楽しむために嫌なことを言った人にとってはつまらないからです。

私も最近、クラスのある人から自分の顔についてからかうかのような、不快になる言葉を言われました。反応させるために言っていると感じたのでスルーしました。相手にせずに済むときは、他にも相手が一方的になって感情的に怒ってくる場合に相手にしないのもあると思います。話合いは大事です。相手にしないというのは、自分も感情的にならないということです。同じくらい感情的になって言い返してしまうと喧嘩に発展し、お互いに感情的になるのがエスカレートしてしまい、良くない方向に向かってしまいます。

ネットで不適切なことを言わないということはもちろん、つい感情的になって反応しないこと、また実生活でも同じように気を付けたいと思います。私は以前よりも感情に任せた言い合いをすることがなくなってきました。感情のコントロールは、ふと思ったことを口にしたり、書き込んだりすることをなくせると思います。これは誹謗中傷しようとしている人をそれぞれ見る第三者にも必要です。ネットを上手く利用するのは難しいことですが、「スルースキル」を身に付けることは、ネットでも実生活でもトラブルや犯罪を防ぐ得策の一つだと思います。